TANINO

和敬会だより

第131号

発行所
医療法人社団　和敬会
谷野呉山病院
富山市北代5200
http://www.wakeikai.com

発行人
理事長　谷野　亮一郎

日本医療機能評価機構
認定第JC1435号

発行日　令和2年4月1日

職員にむけて講演する新理事長

医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して私たちはあなたと共にある」

基本方針

- 専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切にした医療を提供します。
- 常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
- 広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
- 精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
- 環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
- 精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
- 人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。

私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

職員募集専用サイト開設しました

「目標を周囲に宣言する？　しない？」

理事長・院長　谷野　亮一郎

平素より皆様には当法人へのご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、年が明け、新たな気持ちで今年の目標を立てられた方も多いと思います。私のように「法人理事長として」「病院長として」「医師として」「夫として」「父として」「子として」そして「日本男児として」（笑）とより細分化して目標を立てられた方もおられるかもしれません。あるいは目標が年をまたいだ方もおられるかもしれません。

目標を達成するためのコツとして、「周囲に目標を宣言すると達成率が上がる」と言われています。心理学で「宣言効果」と言われ、自分にプレッシャーをかけ、モチベーションを上げることができます。『ワンピース』という漫画の主人公は「海賊王に！　おれはなる！」と周囲に宣言しています。ダウンタウンの松本人志さんは、お笑い芸人による闇営業問題でドタバタしていた時に自身のTwitterで「松本、動きます。」とつぶやきました。もはや「ツイート」はつぶやきじゃないですよね。これは立派な「宣言」です。松本人志さんはTwitter上で「宣言」することで、自分で自分の背中を押したのではないでしょうか。

一方、周囲に宣言しない方がよいとの研究結果も報告されています。TEDグローバル（TEDカンファレンスの姉妹講演会）でDerek Siversが「Keep your goals to yourself（日本語題「目標は人に言わずにおこう」）」と題して講演しています。目標を人に話し認めてもらうと、それが一種の社会的現実となり、もう実現したかのように心が錯覚してしまい、必要な努力を実際に行う動機づけが低下してしまうらしいのです。興味のある方はTEDの講演を検索してみてください。

昨年十月に理事長に就任したことを受け、昨年末に開催した法人忘年会の冒頭で職員の皆様に向けて話をする機会をいただきました。そこで「基本理念を中心に、職員満足度の向上→提供する医療の質の向上→患者満足度の向上→地域における評価向上→集患力の向上→職員・病院への投資→職員満足度の向上」のサイクルを回していきたいと「宣言」しました。あとは私の生い立ちを語るのに半分以上の時間を費やしてしまいましたが…。

さて、目標を周囲に宣言すべきか、せざるべきか。それは「自分に合った方を選びましょう」ということになるでしょうか。

法人本部長　就任のご挨拶

本部長　谷野　俊郎

この度、令和元年十月より法人本部長を拝命することになりました谷野俊郎です。法人本部長という重責を担うポストに就くことには、身の引き締まる思いではございますが、その責任に見合う成果を出すことができるよう尽力していく所存です。

では法人本部長とは何をするのか？ひと言でいえば『法人全体の管理・分析・改善』です。病院経営だけでなく人口減少による労働力の不足など、組織運営は今後ますます舵取りが困難になると予測される中、管理による組織の安定・分析による組織のリスクマネジメント・改善による組織の成長の三本柱を同時進行で発展させたいと考えています。当法人は運営面においてまだまだ改善すべき点が多く、時間がかかることもあると思いますが柔軟に現場の意見等を聞き、着実に成果を出していければと考えています。

最後に、昨今の新型コロナウイルスによる院内感染対策により、当院に入院・通院されている患者さま、お見舞いに来られているご家族・お知り合いの方々、当院へ出入りされている関係各位には大変ご不便をおかけしていますが、ご協力に感謝いたします。

第三十九回院内学会
テーマ「原点回帰」～多様なニーズに私たちはどう向き合うか～

令和元年十一月二十四日に第三十九回院内学会が開催されました。午前の研究発表は十一演題の発表がありました。今年は①事例への取り組み②地域移行支援③その他（事例報告、専門外来やデイケアセンターの取り組み等）の三セクションに分けました。優秀論文の一題は栄養課の嚥下機能に応じた食事提供、嚥下粥の取り組みの報告でした。もう一題はリハビリテーション部の精神疾患患者に対する身体機能に着目した個別介入の有用性と課題で作業療法のプログラムに歩行訓練を取り入れた報告でした。各部署の日頃の実践や関わり、課題と対策などを知る事ができ、活発な質疑応答があり盛り上がりました。

院内で日頃多様な疾患の患者さまと関わっているとき、常にこれで良いのだろうかという不安やジレンマを抱えているので、元気をもらえるような話、関わり方の方向性の話を聞きたいとの意見があり、午後の特別講演には医療法人社団成仁　成仁病院院長春日武彦先生をお迎えして、演題「援助者にとって気が楽になる考え方と戦略」のご講演をいただきました。患者さまやご家族に対しての多様な疾病への対応やニーズについて、各々が考える機会を与えてくださり、先生の貴重な経験談から、相手と向き合うには、個別性の尊重とパターンで捉える姿勢が大切であることを学びました。また、援助者は、患者さまやご家族への関わる時の気持ちを楽にすることで冷静に向き合えると話されました。今回の講演で学んだ知識を生かし患者さまやご家族に向き合いたいと思います。

最後に地域からも多数の参加があり、盛会のうちに終了しましたことに感謝いたします。

実行委員長　小中　まゆみ

優秀論文発表者

研究発表　発表一覧

氏名	所属	テーマ
吉原　直美 ☆	コ・メディカル課	精神疾患患者に対する身体機能訓練の難しさ
岡田　智子	ストレスケア病棟	精神科での運動の取り組み－運動で心も身体もスッキリ－
酒井　佳子 ☆	栄養課	嚥下機能に応じた食事提供の取り組みについて
廣瀬　義明	３Ａ病棟	対応困難な患者の看護 ―精神遅滞（知的障害）患者の問題行動に対してスタッフが取り組んだ事―
野崎　　誉	クライシスケア病棟	怒りについての実態調査 ―アンガーマネジメントへの第一歩―
小澤　侑奈	メンタルケア病棟	ストレングスモデルを活用した退院支援
守田　彩音	生活訓練センター	退居支援から見えてきた今後の課題
藤井千恵子	３３病棟	認知症患者のADL維持を目指しての取り組み
石倉　直美	コ・メディカル課	もの忘れ専門外来の現状と精神保健福祉士の役割 ―事例を通して支援の在り方を考える―
小田　良光	総曲輪デイケアセンター	デイケアセンターにおける発達障害支援プログラムの取り組み
小林　　敬	医局	精神鑑定におけるグレーゾーン事例について

☆優秀論文賞　受賞者

認知症疾患医療センター　研修会

令和元年十一月一日、医療法人社団碧水会　長谷川病院　吉永陽子院長を講師にお招きし「地域とつながる認知症治療と介護」と題し講演会と研修会では初めての試みのグループワークを行いました。

先生から長谷川病院での認知症患者さまへの対応を含めた四つのテーマ『治療や退院支援の院内外連携について』『認知症について』『認知症の人・家族への対応』『地域連携』について講演を戴きました。

長谷川病院では、全入院患者さまに医療チームを結成し病状に応じてチーム・ミーティングを行い、毎週、各病棟で多職種が集まり症例検討を行った上で、管理者を含めた入・退院レビューを開催されており、入院時から退院を見据えた治療・支援が提供できる仕組みが構築されています。しかし、実際に受診する本人や家族が精神科病院での治療に納得していない場合や介護家族が居らず親しい他人に介護されているなど、一見して困難と感じる事例も散見されます。また、認知症治療を円滑に提供するため、社会的モデルを治療の基本として、広報活動を継続すること、そして『認知症を診る』とはその人の周辺をみるということであり、親族疎遠な事例こそ院内・外の支援者がチームで関わる意味があるとのことでした。

グループワークでは、『初期認知症の方の支援体制について』『認知症疾患末期の方の支援体制の構築』について多職種がそれぞれの立場で意見交換を行いました。

チームでの支援体制を作り実践する事を改めて意識させて戴きました。

先生には多岐にわたる講演を戴きました。心から感謝申し上げます。

精神保健福祉士　石倉　直美

リレー紹介　訪問看護室

訪問看護室は現在、看護師五名でおよそ百二十名の患者さまを対象に訪問看護を行っています。

訪問地域は富山市全域を中心に、射水、高岡、南砺、氷見、魚津と広範囲にわたります。

訪問対象者は単身生活の方や、ご家族と同居の方、またグループホームや施設に入居されている方等に伺っています。

訪問では日中（デイケア、デイサービス、作業所、仕事等）の過ごし方や、薬について、生活費のやり繰り、対人関係、体調管理等多岐にわたり共に考え、支援しています。

地域で生活する患者さまが、安心して自分らしい暮らしをする事ができるよう、ご家族や地域及び関係機関と連携しながら訪問にあたっています。

訪問に伺いお話を聴く中で、心配事や不安が少しでも軽減したり、日々の嬉しい事や辛い事を共有できる、暖かい訪問看護でありたいと、職員一同取り組んでいます。

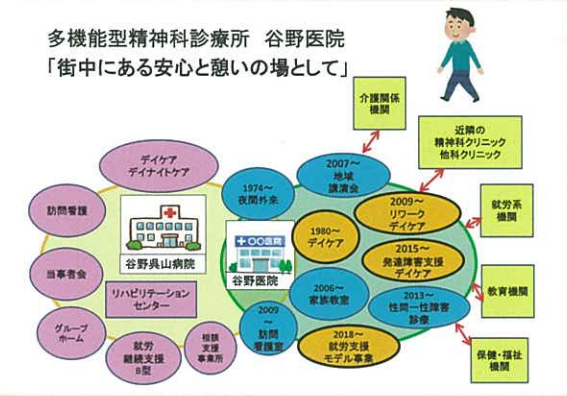
訪問看護室　高野　田真代

谷野医院

多機能型精神科診療所『谷野医院』の一翼を担うデイケアセンター

谷野医院は、谷野呉山病院を退院した患者さまが地域で再発することなく、自ら望む生活を安心して実現できるよう、一九七一年から社会資源を一つ一つ手作りし、支援体制を整えてきました。二〇〇六年に当院の移転・新築後も、通院患者層の変化や地域の関係機関からの求めに応じ、院長をはじめ多職種で必要とされる治療や機能を模索し、現在は、図に示す多機能型精神科診療所として診療を行っています。

今回は、その一翼を担う「総曲輪デイケアセンター」の取り組みを紹介します。定員は五十名の大規模デイケアです。統合失調症の患者さまを対象としたプログラムの他に、うつ病等のために会社を休職している患者さまの復職支援として『リワークプログラム』、発達障害の患者さまのコミュニケーションスキル向上等の支援として『発達障害支援プログラム』、二〇一八年度から所轄のハローワークと連携して行う『就労支援モデル事業』を展開しています。最近は、他の医療機関からデイケアプログラムの利用を考えている患者さまがいます」とご紹介いただくことも増えてきております。



今後も、地域の他の医療機関や就労・教育・介護・保健・福祉等の関係機関と連携を深め、様々な疾患に対応できるプログラムを整えていきたいと考えています。

所長　小田　良光

〈多機能型精神科診療所とは〉

必要に迫られて精神科デイケアや訪問看護、グループホーム、相談支援事業所などの諸機能を徐々に追加し、医療と福祉の場を多様に重なり合わせながら多職種で多機能になった精神科診療所を指す。

参考文献・引用文献
日本多機能型精神科診療所研究会・会誌第三号

デイケアのぞみ

交通安全講習会を開催して

最近、デイケアメンバーの歩き方や姿勢を見ていると、腰が曲がり下肢や腰に痛みがある人が多く、高齢化が進んでいます。一度、日頃気をつけなくてはいけない点を指導して頂き、歩き方や道路を渡るときに、気をつけるポイントを警察の交通安全の専門家から、講習を受けるのが大事だと思い、講習会を企画しました。

折しも、昨年末にメンバーが交通事故に遭遇したこともあり、令和二年二月七日のやすらぎホールには初めてにも関わらず、デイケアやリハビリテーションセンター・ワークハウス連帯からも多数の参加者があり、五十六人も集まり開催されました。

講義は富山西警察署の交通課の警察官が丁寧でわかりやすく、DVDやスライドを使い、富山県の交通事故の傾向や件数などを紹介し、道路を横断するときの注意点や、夜間の運転者からの視覚の盲点などの指導を受け、反射材の活用などの大切さを知りました。また、メンバーからは日頃はなかなか聞けない交通安全に関する質問が多数あり、活発な講習会となりました。今回交通安全協会からは反射材などの提供を受け、有り難いことだとメンバーも喜んでいました。次回は秋に予定したいと思います。

所長　川瀬　健一

法人の動き

月	日	事項
11	1	認知症疾患医療センター研修会
11	24	第39回院内学会
11	29	県健康課実地審査・実地指導
12	11	職員総会
12	18	障害福祉サービス事業者実施指導
12	27	理事長就任記念講演会
1	4	創立記念式典・忘年会
1	27	仕事始め式
		生活保護法による指定医療機関個別指導

医療安全標語　優秀作品

院長賞

小さな気付きは
みんな（患者さま、職員）を守る
大きな力

最優秀賞

インシデント、
恥ずかしくないよ、気付く技術

優秀賞

何か変と　感じる感性　大切に
声かけが　安全につながるチームワーク

医療安全の意識を高めるため全職員から標語を募集しました。常に医療安全を意識しながら、業務に取り組みたいと思います。

表彰

日本精神科病院協会員病院職員永年勤続表彰

30年勤続

高嶋　郁子（谷野医院　精神保健福祉士）

永年勤続者表彰

20年勤続

仁木　浩昭（3A病棟　准看護師）
堀口　明美（コ・メディカル課　作業療法士）

15年勤続

野村うちぬ（人事課　事務員）
辻井　雅紘（クライシスケア病棟　看護補助者）
竹内　佑也（ストレスケア病棟　看護師）
二口美恵子（栄養課　調理師）
伊勢　美鈴（クライシスケア病棟　看護師）
渡辺　彬子（生活支援センター　精神保健福祉士）
志波　久恵（谷野医院　精神保健福祉士）
津田　悦子（栄養課　調理師）
城川　幸弘（総務課　庶務）

10年勤続

關原　佳奈（33病棟　看護師）
高野健太郎（クライシスケア病棟　看護師）
竹内　智美（栄養課　調理員）
竹内　稔（3A病棟　看護補助者）
土田　忍（クライシスケア病棟　看護補助者）

表彰

令和元年度　業務優秀部門賞

診療部　栄養課

第39回院内学会　優秀論文賞

酒井　佳子（栄養課　管理栄養士）
吉原　直美（コ・メディカル課　作業療法士）

紙面に掲載されている患者様の写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

新型コロナウイルスのまん延で、院内でも感染予防対策をとっています。その中で日常の想定と初期対応の重要性を感じました。終息にむかうよう切に願います。（樹）